

# キウイフルーツかいよう病の抗生物質剤による防除効果

銅剤を主体とした防除を実施条件下であっても春期の強風雨などによりかいよう病の感染拡大が懸念されることがある。

そこで、抗生物質剤を強風雨後に散布し、防除効果を検討した。

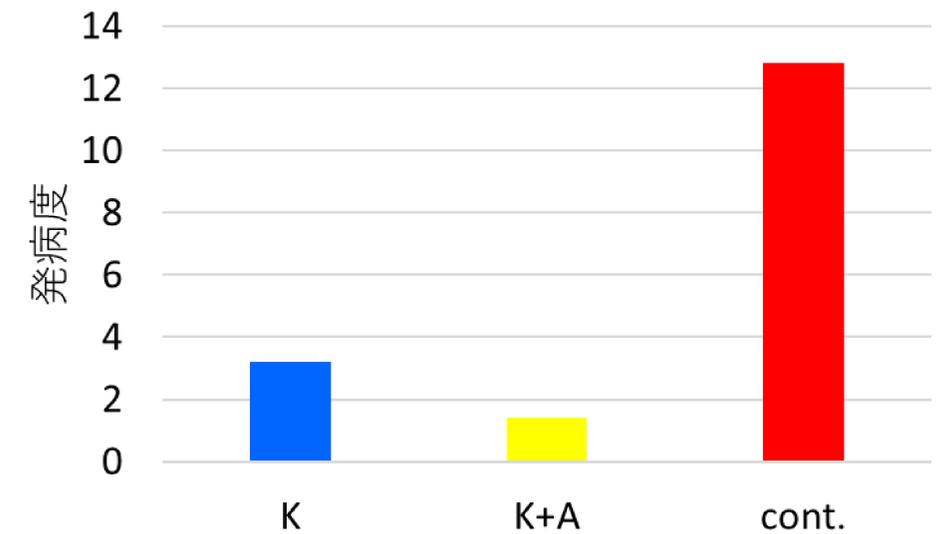
4/17-18にかけて、強風を伴う大雨(53mm)

## ○試験区の薬剤防除歴

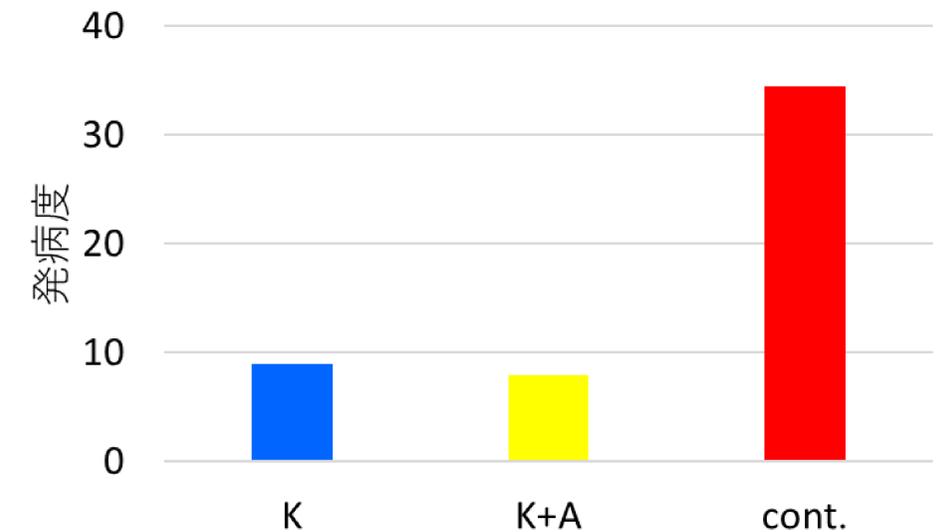
試験区	倍率	薬剤散布日				
		4月14日	4月19日	5月2日	5月19日	6月9日
①コサイド3000	2,000倍	○		○	○	○
②コサイド3000 アグレプト水和剤	2,000倍 1,000倍	○	○	○	○	○
③無散布		-	-	-	-	-

※コサイド3000は炭酸カルシウム剤200倍を加用

## ○花蕾の発病度調査(5月20日)



## ○葉の発病度調査(6月19日)



K : ①コサイド3000

K+A : ②コサイド3000+アグレプト水和剤

Cont.: ③無散布



花蕾の褐変



葉の斑点症状

悪天候の後、直ちに抗生物質を散布することで、花蕾の発病や葉の発病を軽減できる